稼働しています！

スポーツメディカルセンター

スポーツメディカルセンター　センター長　門脇（かどわき）　俊（まさる）

写真 1

記者会見　左から門脇俊センター長、椎名浩昭病院長、内尾祐司教授

写真 2

診察風景

昨年 12 月に設置されたスポーツメディカルセンターですが、2024 年4月より診療を開始し、5月 16 日にはセンター開設について記者会見を行いました。会見ではセンター開設の経緯に始まり、「アスリートを守る」というコンセプトに基づくセンターの理念や診療体制について述べました。この模様はテレビや新聞等で報道され、患者さんから多くの反響を頂いております。

初診予約連絡先

地域医療連携センター　TEL：0853-20-2061
FAX：0853-20-2063

センター稼働後より、部活動に勤しむ中高校生アスリートはもちろんのこと、中高年のスポーツ愛好家の方々まで多くの患者さんにご利用いただいております。傷病発生から迅速な受診を目指し紹介状を不要としましたので（別途選定療養費が必要です）、受傷後すぐにご予約の連絡をいただき、即日検査・診断・治療開始ができたことで、直近の大会に復帰できたケースもありました。

当センターはスポーツによる損傷や疾病を専門的に診療する組織ですが、診療対象は競技レベルや年代を問いませんので、お気軽にご紹介頂ければ幸いに存じます。「スポーツによるケガを繰り返している」、「長引く慢性的な痛みに困っている」、「大事な試合の前にケガをしてしまった」、といったお悩みのアスリートは当センターの得意とするところですが、それ以外にも「スポーツ活動によって月経がこなくなった」といった女性アスリート特有の健康問題にも婦人科や栄養治療室との連携によって対応可能な診療体制を敷いています。

「アスリートを守る」を合言葉に、地域でスポーツを楽しむ方、頑張っている方が、「何かあっても、ここに来れば大丈夫」と思える場所になれるよう、これからも診療機能のレベルアップを目指して邁進していきます。今後もご支援のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

問合せ先　整形外科　外来　TEL：0853-88-2385

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

7月15日～8月31日

対象者：一般　一般市民　医療　医療関係者　本学　本学教職員・学生

開催日	開催名	場所（★印 学外開催）	対象者	主催者
8/31（土） 13:30~15:30	浜田市民フォーラム ～島根大学病院の最新治療～	★石央文化ホール 小ホール（浜田市）	一般	島根大学医学部附属病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

Vol.129 2024 07 島大病院ニュース
2024年７月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

表紙：内科学講座　教授　田邊　一明

CONTENTS

中表紙
・超高齢化社会における骨粗鬆症診療の位置づけ
・病院機能評価を受審して～看護部の立場から～
裏表紙
・稼働しています！ スポーツメディカルセンター
・研修会・講習会・セミナー開催情報

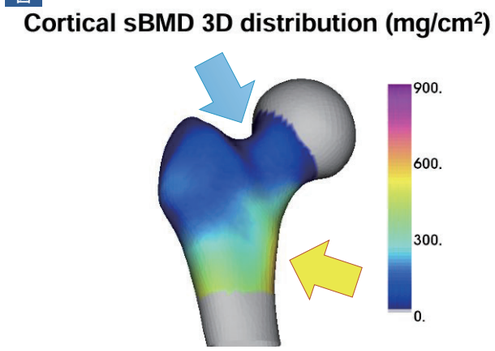
超高齢化社会における骨粗鬆症診療の位置づけ

内科学講座内科学第一　准教授　山本（やまもと）　昌弘（まさひろ）

私は島根医科大学を卒業後、加藤譲名誉教授や杉本利嗣名誉教授から視床下部・下垂体疾患や副甲状腺・骨代謝疾患の薫陶を受け、現在は糖尿病に関連する合併症や腎障害の進行予防を専門とする現職教授である金﨑啓造教授の指導の元、内分泌代謝疾患や糖尿病関連合併症の研究、教育および臨床を担当しています。

研修医時代に医局の抄読会で1型糖尿病患者の骨粗鬆症リスクが高いことを知り衝撃を受け、博士取得後から2型糖尿病における骨粗鬆症の病態を研究してきました。ヒトの高齢者の骨代謝を検証可能な疾病モデル動物が存在しないため臨床研究を行い、2型糖尿病患者の骨粗鬆症は、有意な骨密度の低下が無くとも骨折リスクが高まるという、骨質劣化を病因とする他疾患にはない特徴を有することを見出しました。骨密度撮影画像から統計学的に実在しうる大腿骨近位部の仮想三次元立体骨を構造解析し、骨量では推定できない構造劣化による骨脆弱性の発症機序を研究しています（図）。構造劣化に基づく骨粗鬆症の診断基準は存在しないため、直ちに臨床利用はできませんが、腎障害を含む様々な内分泌代謝疾患が構造劣化型骨粗鬆症を有していることを早期に検出し、骨量には反映されない部位特異的骨質改善が得られる原疾患の治療法や骨粗鬆症治療薬の選択に応用し、骨折予防に役立てることを夢見ています。

図



大腿骨近位部の仮想三次元立体骨の構造解析例

皮質骨骨密度分布は一様ではなく、大腿骨内側の頚部から骨幹部とは異なり（黄矢印）、頚部から転子部の外側において骨強度の低下が疑われる（青矢印）。

一方、排泄などで他人の手を煩わせることなく自立した生活を続けることは高齢者の切実な願いです。しかし日常生活動作の自由を奪う骨粗鬆症に対する島根県の健診実施率は全国最下位であり、二次検診で骨粗鬆症患者が医療機関を受診することは望めません。日々の診療の中で、身長の低下を契機に大腿骨近位部骨折の先行骨折である椎体骨折を発見し、治療介入して新規骨折を予防し移動の自由を維持することは、我々医師のみが果たしうる超高齢社会の課題に対応する有効な手段であろうと考え研究・教育・臨床に取り組んでいます。

問合せ先　内科学講座内科学第一　事務室　TEL：0853-20-2183

病院機能評価を受審して
～看護部の立場から～

A病棟6階　看護師長　石飛（いしとび）　和歌子（わかこ）

【よりよい看護の提供を目指して】

病院機能評価は医療の質向上を目指して、第三者が病院を評価するものです。評価を通じて病院は課題改善に向けた取り組みを行い、5年の認定期間を経て、この度更新のための受審を迎えました。

看護師として特に改善を目指したのは「患者の意思決定をサポートする機能」についてです。これまで患者の治療方針決定等の重要な意思決定の場に立ち会うことができないことが多く、看護師としての役割が果たしきれていませんでした。病院として定める説明と同意に関する方針、マニュアルから「あるべき姿」を確認しました。説明と同意のプロセスに看護師が同席し、患者さん及びご家族の反応を確認し記録に残し共有する、受け入れ状況に合わせた支援を検討することを看護部門として目指しました。病院機能評価受審をきっかけに医師との連携を強化し、看護師が同席する意義、カルテ記載の重要性について話し合い、出来ることから一つずつ取り組んできました。以前の「時間がないから説明の場に同席はできない」という考えから、「どうやって同席の時間を作るか」という発想に少しずつ変化し、より「患者の思いを聞き出そう」とする看護師の姿勢が見えるようになりました。多職種で治療方針を確認しあう場面が増えたと思います。

写真

【ケアプロセス調査（模擬）】

契約の透明性や、規約の確認等についてもチェックを受け、ディスカッションをしました。

受審当日は100点満点とはいかず課題が残るものでしたが、目標は病院機能評価受審ではなく、患者の視点に立った質の高い医療サービスの提供です。受審をきっかけに病院の方針やマニュアルを再確認し、手順に基づいた実践ができているのかという観点で日々の看護を振り返る貴重な機会を得ました。改善活動の半ばとして、今後も取り組みを継続していきたいと思います。

Shimane University Hospital

継続的な改善のための、外部評価

病院機能評価を受審しました

医療安全管理部　教授　深見（ふかみ）　達弥（たつや）

当院では、5月27日（月）～ 29日（水）の3日間にわたり、病院機能評価を受審しました。

病院機能評価とは、外部の評価機関である公益財団法人 日本医療機能評価機構の中立的、科学的、専門的な見地から、病院の組織運営・管理と、病院が提供する医療について「患者」の視点での評価を受けるもので、患者さん中心のケアプロセスや、医療の質の継続的な改善ができているかどうかを知る大切な機会となります。

当院では全職員が参加し、病院一丸となり医療安全の確保、改善活動を活性化できるよう取り組んできました。当日の審査のなかでサーベイヤー（審査員）の方々からいただいたコメントは、各部署の日頃の努力が認められるような好事例については部署または個々のモチベーションにもつながります。一方で指摘いただいた点については、当院の基本方針にもある「患者さんの視点に立った医療を提供する」という理念に立ち返り、改めて日々の業務や運用を見つめなおす機会となりました。

評価の結果が出るまでは数カ月かかりますが、私たちはいただいた指摘やアドバイス、自ら振り返った結果をもとに、さらなる改善活動に取り組み、安心安全な医療の提供に努めてまいります。

問合せ先　医療サービス課　TEL：0853-20-2520

写真1　実地審査

病棟をはじめ院内各部署を実際に見てまわり、患者目線で各部署がきちんと運営されているかチェックを受けます。

写真2　書類審査

病院機能を構成する一つひとつの要素についてチェックを受け、ディスカッションを行います。

＊本審査では写真撮影が禁止となっており、写真は2024年2月の模擬審査の際に撮影したものです。

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年7月
ご報告

出雲ロータリークラブ様より図書カードが寄贈されました

総務課総務係

5月23日（木）に出雲ロータリークラブ様より、読み聞かせ用の本（図書カード）が寄贈されました。当日は、出雲ロータリークラブから医療法人社団耕雲堂小林病院の小林祥也院長が訪問され、病院長へ図書カードが手渡されました。

これは出雲ロータリークラブが令和6年に創立70周年を迎えるにあたり、その記念事業として行うもので、子どもたちの読書活動への支援として、出雲市内の全幼稚園、全保育園、院内学級、院内保育園に図書カードを寄贈されるものです。

当院では、院内学級とうさぎ保育園に対して寄贈されました。

急激に変化する時代において、必要とされる資質や能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、表現力等を養うことは大事であり、読書活動はその力を培う大切な活動です。うさぎ保育園においては、各クラスに1冊ずつ絵本等を配置する予定としております。

今回頂戴いたしました貴重なご厚志に対し、感謝申し上げますとともに、院内学級やうさぎ保育園での読書活動に活用させていただきます。

問合せ先　総務課総務係　TEL：0853-20-2016

写真1　左から当院椎名浩昭病院長、小林病院小林祥也院長

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

写真１　左から木村悦子さん、内尾祐司教授

写真２

整形外科外来受診中の木村悦子さん（95歳）平泳ぎ３つの世界新記録樹立

整形外科　教授　内尾（うちお）　祐司（ゆうじ）

当院整形外科外来受診中の木村悦子さんは、2024 年４月６日（土）、７日（日）に松山市で開催された日本マスターズ水泳短水路大会で、女子平泳ぎ 95～99 歳区分の 50、100、200 メートルの３種目で世界新を記録されました。50 メートルで１分 17 秒 74、100 メートルで２分 58 秒 99、200 メートルで６分 46 秒 32 を記録し、これまでの世界記録を大幅に塗り替えられました。

木村さんは 2007 年から当院整形外科の膝外来で 17 年に亘って診せていただいている患者さんです。2015 年のロシアのカザンで開催された世界マスターズ世界大会では、金メダルを獲得され、３つの日本記録保持者でもいらした方ですが、2016 年の大会以降、両膝痛が増悪し、当科で薬物療法を受けながらトレーニングを行っておられました。途中、内科疾患にも罹られ、トレーニングを中止せざるを得ませんでした。整形外科外来で薬物療法を行いながら、2024 年１月からトレーニングを再開され、不屈の精神で病気を克服され、今回の栄えある３つの世界新記録を樹立されたのです。私どもにとりましては、まさに医者冥利に尽きる経験をさせていただきました。

木村さんのますますのご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

問合せ先　整形外科　医局　TEL：0853-20-2241

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年7月

ご報告

薬に負けない"美味しい"を創る
～島根大学発ベンチャー「みらい無限レシピ」について～

地域未来協創本部 地域医学共同研究部門長・教授　中村（なかむら）　守彦（もりひこ）

写真１　減塩システムセット

写真２　アレンジレシピ例

島根大学で達成された研究成果に基づき、昨年 10 月に大学発ベンチャー「株式会社みらい無限レシピ」を医学部キャンパス内で起業しました。本事業は、島根大学の〝じげおこしプロジェクト〟「中海・宍道湖・大山圏域市長会」および「出雲市」の成果でもあります。このヘルスケアベンチャーは「減塩食支援システム」により食生活から健康寿命の延長を目指しています。既存の減塩弁当とは全く違い、自分の意志で献立を選び簡単に料理をつくる〝自分が主役〟の減塩生活が身につくシステムを考案（特許第 6714238 号）して事業化しました。具体的には塩分ゼロの冷凍食材と減塩のソースの販売、それらを活用して無限のレシピを可能にするアプリの開発・提供です（写真１）。個包装の食材と独自開発のソースの組み合わせは自由に選べ、調理は電子レンジのみです。提供される全てのレシピは株式会社みらい無限レシピ所属の管理栄養士監修で塩分１食２ｇを超えず、栄養バランスも計算されています（写真２）。パイロット臨床研究では被験者は１日２食の無限レシピを４週間続けることができ、その結果全員の血圧の平均値が下がる傾向が認められました（Shimane Journal of Medical Science）。このシステムが医療関係者の皆様を通して高血圧に悩む方々への療養計画の選択肢の一つとなることを願っています。

毎日、無限レシピを食べる必要はありません。まずは塩分２ｇ以下でも満足できる味があることを知り、アプリで減塩のコツを身に着ける支援をします。降圧剤を服用中の方も含めて、簡単に（電子レンジ）、美味しく（レストランの味が減塩で）、楽しく（自分で選んでつくる）飽きずに続く減塩生活を応援します。

当院循環器内科、脳神経内科、産科、眼科、臨床検査科等と協働しており、地域医療機関の皆様にご理解・ご協力を賜れば幸甚です。

問合せ先　地域未来協創本部　TEL：0853-20-2912

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

BPSモデルを意識した実習生指導及び研修医教育

総合診療科　教授　牧石（まきいし）　徹也（てつや）

当院の総合診療科は月曜日と木曜日に総合診療外来を行っている他、救急外来のお手伝いもしています。診療を通じて実習生の指導や研修医教育を行っていますが、一般的な問診や身体診察のスキルに加えBPSモデルを重視した問診を重点的に指導しています。

BPSモデルは患者さんと向き合う際に大切な３つの要素を示しています。

- **B（Biomedical；病気そのもの）**：患者さんの病気や症状の医学的な側面
- **P（Psycho；その人の価値観）**：患者さんの心理的な状態や価値観、感情
- **S（Social；社会的要素）**：患者さんの社会的背景、家庭環境、経済状況など

病気そのものに加えて、目の前の患者さんがどのような人生の軌跡をたどり、どのような価値観を持っていらっしゃるのか、どこに誰と住んでいらっしゃって家族関係はどうか、金銭的なお困りごとはないか、などを知ることで、「病気」の治療だけでなく、「病気を持った方」にとって、より望ましい治療の方向性を考えることが出来るという考え方です。多くの医療者、特にクリニックや診療所で診療をされている皆さまには当たり前に実践されていることと思います。しかし、解剖学に始まり主にBiomedicalの知識を詰め込んで来た実習生や研修医にはなかなか難しいようです。特に患者さんから情報を引き出すスキルの不足をしばしば感じます。大学入学までは受験勉強、入学後はコロナ禍で社会経験が少なかったという影響やSNSネイティブである「Z世代」のためかもしれません。

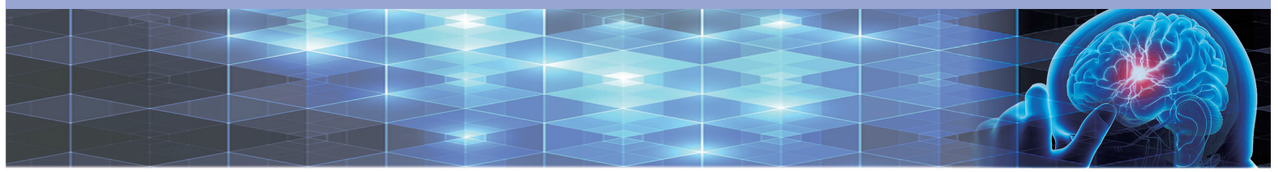
「問診」は、治療の方向性を考える上でも、適切な意思疎通を図る上でも、そして患者さんとの信頼関係を構築する上でも非常に重要なスキルです。まだまだスキル不足の実習生や研修医が皆さま方の医療機関でお世話になっているかと思います。その際には是非皆さま方の「匠の問診の技」を伝授いただけますと幸いです。

問合せ先　総合診療科　医局　TEL：0853-20-2635

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年7月

ご報告



高度脳卒中センターの取り組みについて

高度脳卒中センター　助教　有竹（ありたけ）　洵（しゅん）

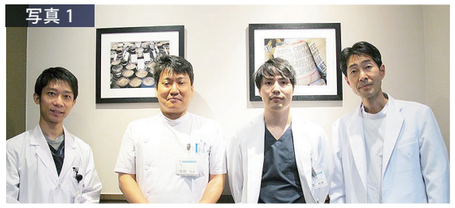
脳卒中とは「脳梗塞」、「脳出血」、「クモ膜下出血」といった脳血管の病気の総称です。脳卒中の治療において「Time is money」ならぬ「Time is Brain」という言葉がありますが、これは脳卒中を発症すると脳細胞は刻々とダメージを負っていくことから、１分でも１秒でも早く治療を行うことが大切であるという格言です。私たちはこの格言に則り、可能な限り速やかに治療介入が出来るように対応を行っております。

当院では2020年10月に高度脳卒中センターを開設し、2021年４月からはホットライン、Join© アプリケーションを導入し、救急隊などからの情報共有を円滑に進めるシステムを構築しました。また、2021年10月からは山陰地方唯一のStroke Care Unit（脳卒中専門病棟）を開設して包括的な脳卒中対応を実施しています。これらの取り組みにより、日本トップレベルの脳卒中治療が出来る体制が出来上がりました。実際に、脳卒中センター開設後から検査や治療までに必要とする時間の短縮を実現しており、退院時に歩いて帰ることの出来る患者さんを増やすことが出来ました。これらの結果は脳卒中学会総会、神経学会総会で報告しており、全国の医師から注目されている取り組みとなっています。

私たちは今後もより良い脳卒中診療が出来るように日々改善を続けて参ります。

脳卒中ホットライン（医療機関専用）　TEL：090-2750-7524

写真１



左から筆者、安部哲史講師、山本和博助教、林健太郎教授

図１　高度脳卒中センター開設前後で検査や治療に必要な時間は短縮できています。

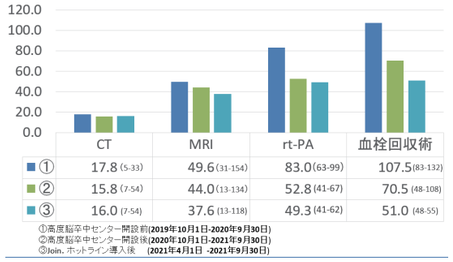
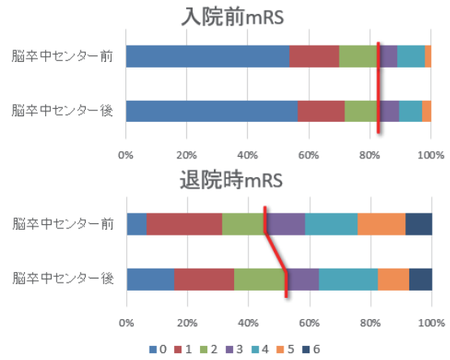


図２　高度脳卒中センター開設後から、歩いて帰ることの出来る患者さんを約6.5%増やすことができました。



退院時mRS 0-2　前 45.9% vs 後 52.5%

※mRSは生活自立度を点数化したもので、０（症状なし）から６（死亡）までの７段階あり、０～２の間であれば歩くことが可能なことを示します。

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

タッチケアの普及活動を行っています！！

総合周産期母子医療センター　病棟保育士　竹内（たけうち）　梢（こずえ）
NICU 副看護師長　門城（もんじょう）　すみ子（こ）
GCU　看護師　長谷川（はせがわ）　美咲（みさき）

タッチケアとは“心とからだのふれあい”です（https://touch-care.net/aboutus/）。私たちは「タッチケア協会」の指導者認定資格を取得しています。今回、島根県リトルベビーサークル「縁」の交流会で、やり方を説明した後、動画を見ながら実際に行ってもらいました。両親だけでなく、兄や姉もタッチケアを通して触れ合っている様子が見られました。

実際に参加されたご家族から「やり方を知らなかったので、実際に教えて頂きながら子どもと触れ合いの時間を作ることが出来たので、とても貴重な体験ができて良かったです。」「子どもと過ごす中で触れ合う時間を大事にしていきたいと思いました。」と嬉しい感想をいただきました。

タッチケアをすることで子どもの情緒が安定し、ストレスホルモンが減少します。また、スキンシップ不足、抱っこを嫌がる子ども、乳幼児虐待等のさまざまな課題が増える中であたたかいコミュニケーションをとりながら“親子のきずな”を深めていくことができます。

タッチケアにご興味がありましたら、下記問合せ先にご連絡ください。

写真 1　動画を見ながらやってみよう!

写真 2　お母さんがタッチケア

写真 3　きょうだいがタッチケア

日本タッチケア協会HP

問合せ
島根大学病院総合周産期母子医療センター
smu-cpmc@med.shimane-u.ac.jp

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年7月
ご報告

「看護の日」のイベントを開催しました

看護部長　川上（かわかみ）　利枝（としえ）

5月12日は「看護の日」です。看護の日の制定は、21世紀の高齢社会を支えていくために、「ケアの心」「看護の心」「助け合いの心」の3つの心を一人ひとりが分かち合い、社会全体で育むきっかけとなるよう、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、1990年に旧厚生省により制定されました。

当院看護部でも、5月12日の「看護の日」にあわせて、イベントを開催しました。今年度は、「血圧を良くして健康に過ごそう」をテーマとしたミニ講座と「ハンドマッサージ」を行いました。ミニ講座では大矢菜穂子副看護師長（慢性心不全看護認定看護師）により、血圧管理が健康にどのように影響するのか、具体例を挙げて説明を行いました（写真1）。また、しまね版食品中の塩分表や塩分チェックリストを配布し、説明したことが生活の中で取り組んでいただけるよう紹介しました。参加された外来患者さんやご家族の方々は時折メモをとりながら、真剣に耳を傾けておられました。

また、外来患者さんやご家族を対象に「ハンドマッサージ」を行いました（写真2）。リラックス効果の高いアロマオイル4種類を準備し、好みの香りを用いマッサージを行いました。マッサージでは、「癒されました」「気持ちいいですね」などのお言葉をいただきました。

「看護の日」の発信により、地域の方々の看護への関心や健康への関心を高めていただけるきっかけになれば幸いです。

写真 1　慢性心不全看護認定看護師によるミニ講座

写真 2　ハンドマッサージ

問合せ先　看護管理室　TEL：0853-20-2478

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

シナリオシミュレーション形式の BLS

-Basic Life Support-
新人医療職員BLS研修を開催しました

クリニカルスキルアップセンター　センター長　廣井（ひろい）　直樹（なおき）
インストラクター　上田（うえだ）　泰憲（やすのり）

４月８日（月）に今年度の新入職医療者向け BLS 研修を開催しました。

今回の講習は、医師や看護師、薬剤師をはじめ、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、診療放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師、視能訓練士など、95 名の多職種参加のもと実施いたしました。

医療従事者にとって、BLS のスキルは患者の命を救うために欠かせない基本的な技術です。本研修では、成人・小児・乳児の心肺蘇生法や AED の使用方法、窒息の対処法について、知識と技能についての能力を修得することを目的として実施しました。この研修で、参加者は知識と技術の両面で自信を深めたことと思います。また、多職種間の連携を強化することも目的の一つと考え、現場をイメージしたシナリオシミュレーション形式で実践的なトレーニングを含めて行いました。これにより、各職種が互いの役割を理解し、協力して急変対応できるようになったと感じています。

クリニカルスキルアップセンターでは、BLS 研修のみならず、多職種の方々が日常業務の中で感じた疑問や不安を解消できるように、様々な学修環境や教育方略の提供をしていきたいと考えています。当院の質の高い医療を継続して提供できるようサポートしていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

また、当センターでは毎月開催している医療職員対象の BLS 講習のインストラクターを募集中です。ご協力いただける方は是非ご連絡ください。

問合せ先　クリニカルスキルアップセンター　TEL：0853-20-2551

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年7月
ご報告

病室の窓から花火を見る小児患者さんとご家族

こどもの日の花火大会

C 病棟６階（小児病棟）　小児科　教授　竹谷（たけたに）　健（たけし）
保育士　椿（つばき）　敦美（あつみ）

「こどもの日の花火大会」が５月５日に開催されました。

毎年恒例のこの花火は、「入院している子どもたちにもこどもの日を楽しんで欲しい」と、出雲市大社町在住花火師の多々納恒宏さんたちボランティア団体「こどもの日花火の会」によるイベントです。

川辺にいる花火師さんから懐中電灯による始まりの合図があり、250 発の花火が上がりました。小児病棟の子どもと付き添いをしている家族は、色とりどりの花火が打ちあがる度に「にこちゃんマークだ!」「大きい花火だ!」「今度はなにかな？」と楽しんでいました。

今回、治療のため長期間部屋から出ることができない子どもがいましたが、その子は、「花火が見れて嬉しかった。きょうだいが外の駐車場から見てたから、一緒にいる感じで嬉しかった。」とお話ししてくれました。お母さんからは、「部屋から出ることができないので外とつながる花火はとても嬉しかったです。」と感想がありました。

花火が終わると、病棟にいる子どもたちから懐中電灯をクルクル回しながら「ありがとう、楽しかったよ」の合図を送りました。コロナでの行動制限は問われなくなったものの、入院生活は、社会的な孤立状態を感じやすく、子どもたちにとってこのような行事は、社会とのつながりや季節を感じる大変貴重なものです。

子どもたちの楽しそうな声を聴き家族と医療者も嬉しい気持ちになりました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

問合せ先　小児病棟　TEL：0853-20-2616

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年7月

ご報告

令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの理解と活用のためのオンラインシンポジウム

救急医学講座　助教　三浦（みうら）　聖子（せいこ）

令和４年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムを普及させることを目的として、2023 年に「文部科学省、令和５年度大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業」による島根大学医学部に対する対話面談が開催されました。この対話面談を受けて、2024 年５月８日（水）鬼形和道教授に第５回オンラインシンポジウムにご登壇いただきました（写真１）。

医学の発展から学生が学ぶべき知識が膨大となっており、夏休みなどの長期休暇をぎりぎりまで減らすといったカリキュラムの肥大化が全国の医学部で問題となっています。カリキュラムを水平垂直統合しスリム化を行う必要があり、そのためには医学部内のガバナンスやリーダーシップが求められレクチャーの需要が高く、「医学部ガバナンスとリーダーシップ」について他大学の模範となる島根大学例について鬼形先生にご講演いただきました。全国の医学教育関係者 216 名の参加を得て、全国に島根大学の取り組みを発信することができました。

2024 年４月 11 日（木）医学科看護学科１年生合同の授業に参加させていただきました。医学生・看護学生が卒業時に身に付けるべきコンピテンシー（資質・能力）のひとつとしてプロフェッショナリズム（写真２）があり、各自学生はどのように考えているのかといった問いかけから、Moodle（IT ツール）を用いた学生との対話を通じて、プロフェッショナリズムを深掘りするという授業でした。学生からは、「鬼形先生の授業を受けて、島根大学に入学することができて本当に嬉しい」といった感想が聞かれました。他大学医学部の教育の参考に、こういった授業内容もオンラインシンポジウムでご紹介いただきました。

写真１
オンラインシンポジウム
（右端：鬼形和道教授）

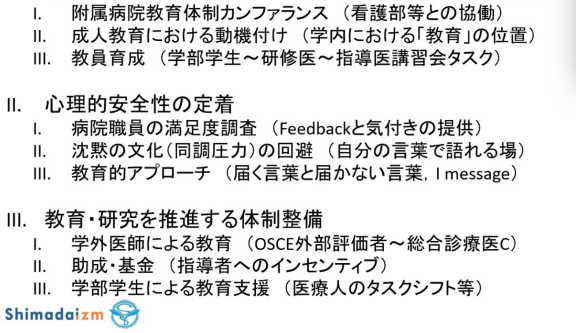
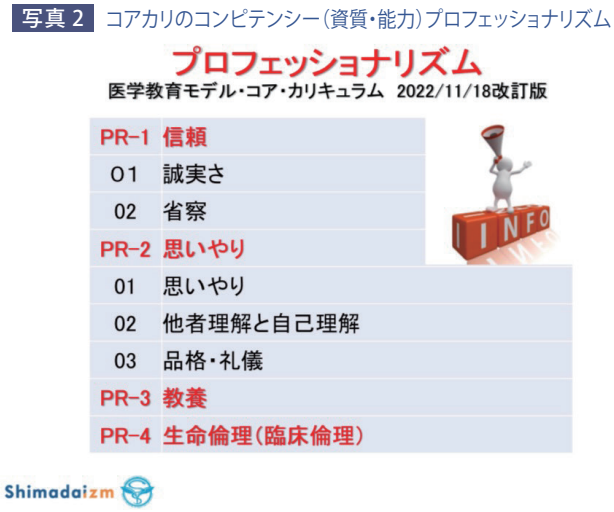


写真２　コアカリのコンピテンシー（資質・能力）プロフェッショナリズム



令和４年度改訂医学教育モデル・コア・カリキュラム
https://core-curriculum.jp/
動画ファイル
https://vimeo.com/r04mccmed

問合せ先　救急医学講座　事務室　TEL：0853-20-2402

ご報告 島大病院ニュース
2024年7月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/